

地域連携だより winter 2017

鼠径部ヘルニアにおける地域連携について



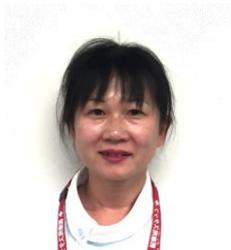
消化器外科 加賀城 安

新年明けましておめでとうございます。また日頃より当院との地域連携につき、お世話になりありがとうございます。当科では、今年1月より鼠径部ヘルニアに対する治療需要の高まりに対応すべく水曜日午後に消化器外科担当医によるヘルニア外来を開設させていただくことになりましたので、この場をお借りしてヘルニア外来についてご紹介を致します。

鼠径部ヘルニアとは鼠径部の筋肉など支持組織が緩くなり、腸や大網（脂肪）が脱出しやすくなっている状態です。このため、弱くなった支持組織の補強が必要になります。以前は周囲の比較的強い組織を縫い合わせていましたが、現在は人工膜（メッシュ）を用いて補強するメッシュ法が標準手術です。これには、腹腔鏡を用いない「鼠径部切開法」と腹腔鏡を用いる「腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP、TEP）」があります。全身麻酔が必要になりますが、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術が徐々に普及しつつあり、当院でも年々増えてきて、患者さんからも高評価をいただいています。治療に悩まれるような些細なケースでもお気軽にご相談いただければ幸いですので、今後ともよろしくお願い致します。



地域医療連携室 新入職員のご紹介



みた のりこ
三田 則子

職種 看護師・介護支援専門員

12月より地域医療連携室で勤務させていただくことになりました。入院されました患者さんやご家族の方に寄り添い、患者さんが安心して在宅へと戻れるよう寄り添いながら支援していきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

